みかんぶろ

平成四年度　二年男児

「ただいま。」
学校から帰ると、お母さんはいつもはたらいています。朝早くから洋ふくを作る仕事をしています。洋ふくを作っているのにお父さんやぼくが起きると、ちゃんとごはんができています
それが終わると、家中そうじをします。一日中お母さんはいそがしそうにはたらいています。
なのに、その日はちがいました。家の中がしいんとしていました。お母さんがいないのかと思っていたら、お母さんがこしをおさえて、かべに手をつきながら出てきました。
ぼくが学校に行った後、きれいなむらさきの花がさいているほてい草の水をかえようとしたとき、ギクッとこしをいたくしたのだそうです。お母さんは、びょういんへ行きました。帰ってきて、
『二日間ねているように』と言われたわ。」と教えてくれました。スーパーのふくろの中には三日分の食りょうが入っているようです。
でも、お母さんが三日もねているわけはありません。やっぱりむりして仕事をするにきまっています。
「ぼくのできること何でもお手伝いする。」そう言うと、お母さんはほっぺたにブチュッしました。
「しげきも役に立つようになったね。ありがとう。」と言ってくれました。
ぼくは、お母さんが起きなくてもいいように、いろんなことをしました。おそうじもしました。ちゃわんもふきました。でもお母さんはやっぱり起きてきました。
それから五日もたつと、こしはよくなりました。
「今日は天気もいいし、こしもなおったから、あみ戸洗いをしようか。」

ぼくはこんなお手伝いが大好きです。ブラシに洗ざいをつけて、ごしごし洗いました。水をかけるとにじが出てきました。ぼくはうれしくなりました。

夜、お母さんとふろに入りました。

「いっぱいお手伝いしてくれて、ありがとう。これ、お父さんにないしょだよ。」そう言ってみかんをむいてくれました。お父さんにないしょで、おふろで食べようと思いました。でも、みかんがおいしくて、うれしくて、大きな声でわらってしまいました。

「おおい、どうした。」お父さんが来ました。あわててみかんをかくして、またお母さんとわらってしまいました。